

# 安城文化

発行:安城文化協会 ☎446-0041安城市桜町17番11号(へきしんギャラクシープラザ内) ☎・FAX 0566(74)6066  
✉ a\_bunkyou@katch.ne.jp ㊚ http://www.katch.ne.jp/~a\_bunkyou/

## 令和6年度安城文化賞等の受賞者決まる 文化功労賞に山下 祥石さん

各賞の受賞者が決まりました。  
第51回文化功労賞には、祥霞会  
山下祥石さんが選ばれました。

第52回文化協会賞(個人)には、  
こやま会藤岡千恵美さんが選ば  
れました。

第65回文化奨励賞には、形象派  
安城グループ永井浩さんが選ば  
れました。

第41回文化振興賞には、芳墨会  
石川由依さん、安城華道連盟久保  
田清子さん、安城石睦会神谷碧水  
さん、西三河岳風会安城支部鶴田  
岳巧さんが選ばれました。

### 第51回 文化功労賞



山下  
祥石

書  
住吉町

昭和25年以後書道を研鑽し、昭  
和47年には岩間祥霞先生に師事。  
昭和63年の「祥霞会」設立に向け  
て発起人として活動し、平成25年  
以降は会長として会の発展に尽力  
しました。その間、読売書法展、  
安美展など多くの展覧会で受賞し

ました。また、地域の福祉センタ  
ーや子供会での書道の講師を務め  
るなど地域活動にも力を注いでい  
ます。

### 第52回 文化協会賞(個人)

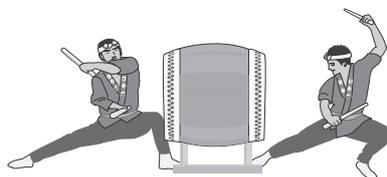


藤岡

千恵美

箏曲  
朝日町

12歳よりこやま会に入門し小山  
要子先生に師事し、平成17年に宮  
城社大師範の免状を許されていま  
す。安城市芸能まつり、全国宮城  
会演奏会、尺八との合奏演奏会、  
ウクライナ難民支援コンサートは  
じめ多くの演奏会に積極的に参加  
しています。また、小学校で箏の  
講師を務めるなど普及にも努めて  
います。これからも箏曲の発展に  
力を尽くし将来が大いに期待され  
ます。



### 第65回 文化奨励賞



永井

浩

洋画  
高浜町

20代から絵画制作をはじめ、洋  
画・日本画両部門で多数の美術展  
で入選を果たしています。平成30  
年には形象派美術協会に入会し、  
会の活動を支えるとともに、旺盛  
な創作意欲で制作を続けています。

### 第41回 文化振興賞



石川

由衣

書  
高棚町

平成26年から令和5年までの10  
年間、芳墨會の世話人を務め、会  
の運営に力を発揮してきました。  
明るく親切な人柄から会員の信頼

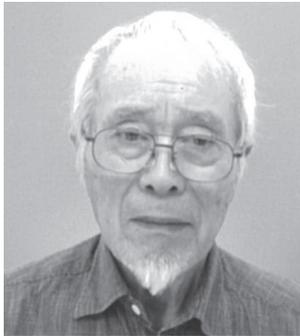
は大変厚いものがあります。



久保田 清子

華道 上条町

平成14年華道連盟に入会し、令和2年には同会の代表・世話人を務めました。流派の異なる会員間や世代間の意見調整役を担い、円滑な会の運営に尽力しています。



神谷 碧水

愛石 大東町

平成14年安城石睦会に入会、以降研鑽を積み、平成30年から代表に就任しています。誠実で円満な人柄で会員の信望は厚く、会員の技量の向上、会の運営に尽力しています。



鶴田 岳巧

詩吟 小川町

同会の世話人、事務局長を歴任し、多年にわたり会の運営に尽力するとともに、公民館での詩吟講座の講師を務めるなど、詩吟の普及にも努めています。

### 第36回 市民文芸まつり

俳句と短歌合わせて延5748人から9220編の応募がありました。なお、表彰式は11月24日(日)の発表大会席上にて行います。

#### ◆俳句・一般の部

- 安城市長賞 神谷 鋭子  
夏草や捨田にもある底力
- 安城市議会議長賞 板倉 稔東  
にじり口入りて汗引く四畳半
- 安城市教育委員会賞 植村 春子  
去年の釘さぐって吊るす貝風鈴
- 安城市教育委員会賞 齊藤 清子  
薄氷のもうじき水になる震へ
- 安城文化協会賞 水野 広子  
盆帰省孫は爺じの膝の中
- 安城文化協会賞 岡田 武敏  
触れ合って人は生くなり今年竹
- 安城市観光協会賞 安田 桂子  
こもれ日にわらを押し上げ咲くすみれ
- 安城市観光協会賞 杉浦真由美  
福助風空知らぬま飾られし

#### ◆短歌・一般の部

- 安城市長賞 深谷 久子  
引き込み線まっすぐビール工場へ  
巨大タンクのつかむ夏雲
- 安城市議会議長賞 岩崎 愛子  
なにごとにも何事もなく一日すぎ  
終いの風呂で手足を伸ばす
- 安城市教育委員会賞 岩間喜久代  
持ち札の悪言雑言くり返し  
男児は泣けり耳鼻科の床に
- 安城文化協会賞 藤田美枝子  
藤沢周平われの愛した幾十冊  
心残るもみな縛りたり
- 安城市観光協会賞 神谷 亜虹  
無意識に背中をたどる夏祭り  
二週間ぶり君を探した



### 第65回 市民芸術祭(開催中)

市民芸術祭が部門ごとに開催され「文芸・技芸・趣味の集い」は開催中で、市民芸能まつりは10月12日～13日に開催されました。その様子は下記写真のとおりです。その後、安美展等が引き続き開催されます。



安城謡曲同好会



乙坂会



賣茶流安城教授者会



安城植物友の会



安城石睦会

# 若手新入会員の紹介

箏曲 清水会 代表 <sup>しみす</sup>清水 <sup>ゆうき</sup>裕貴

今回は、今年の4月に文化協会に加入された箏曲演奏家で教室等の指導者でもある箏曲 清水会代表の清水裕貴さんを紹介します。



清水さんは現在33歳で中学生の頃から学校の授業をきっかけに箏を始め、師匠にも恵まれ存分に実力を発揮し、今日まで数々の受賞に輝いています。また安城市の使節としてデンマークに派遣され世界文化遺産の教会での演奏で好評を博しました。一方で、箏曲宮城社の教師として自身の教室も主宰し、小さなお子さんからご年配の方々まで幅広く指導にあたっていますが、持ち前の柔軟性と明るさ

により老若男女それぞれ、適切な指導に努めています。清水さんの座右の銘は「温故知新」で古き良き日本文化を若い人に継承するとともに楽器「箏」の持つ魅力を多くの方に感じていただき、箏が日本人の誇りに繋がることを期待しています。そのために常に弟子の模範であることを信条に切磋琢磨しています。教室も多様化し、オンラインによるレッスンやSNSを駆使した指導にも対応しています。中・高生等には、こうした箏の魅力を理解し厳しい稽古をも楽しめる人材も少なくないようです。

今回、安城文化協会に加入し協

会の様々な企画にも対応すべく芸能まつり等にも若い世代の意見や考え方をまとめ反映できたら新たな入場者を確保できるのではと提案されています。

また、文化協会には数々の部門と団体があり、部門ごとの行事が開催されていますが、垣根を越えた企画により来場者が、より楽しめるような絵画・書等と音楽のコラボなど多様化ニーズに呼応した考えも持っておられます。幅広い見識を備え、安城の芸術文化の発展を担う逸材として今後の活動を見守りたい芸能家です。



## 西三文協美術展

安城文協の出品者

2024. 9. 18(水)～23 (月・祝)  
碧南市藤井達吉現代美術館

洋画 ○永井 浩 安城  
○吉村豊太郎 景  
○稲垣 政  
アビニヨンの散歩道  
○田端 京一 荒模様  
○藤岡 延也 白川郷

日本画 ○神谷 恒行 半化粧  
○牧 るみ子 ただいま  
書 ○天野 月祥 ゆふぐれて  
○近藤 翠香 張宣詩  
○山下 祥石 圓  
○矢田部琴舟 根

写真 ○榊原 勇治 朝日を浴びて  
○野村 有司 野良  
工芸 ○山本 昌子 ファンタジー  
○神谷 明美 想い  
○田中 好光 マット袖青華椿花瓶  
○東方美千代 灯り

## 令和6年度愛知県文化協会連合会西三河部芸能大会

令和6年10月6日(日)

岡崎市民会館あおいホールで行われ、安城市からは箏曲 こやま会、尺八 安城三曲会が出演されました。



## 名誉会員 故 加藤 博 先生を偲んで

安城文化協会会長 石川 清幸

博先生は、昭和二十五年光風会展・日展入選に始まり、多くの展覧会に入選・入賞を重ねられました。安城南高校をはじめ、多くの壁画の制作、知多正方便襖絵、奈良県長谷寺屏風絵など多くの寺社の襖絵・屏風絵を作成され、さらに民話の挿絵、三河万歳、地元町内会機関紙への挿絵までに及び、その多彩でこころ温まる作風は、洋画の枠組みをはるかに超え、安城市の誇る勇壮な画家先生でありました。



文化協会関係においては、昭和42年から安美展審査員、昭和53年には築山素紅賞、昭和57年安城文化賞を受賞され、何時の時代も文協愛は変わりませんでした。

先生の画業を垣間見ますと、裸婦と線描でしょうか。裸婦は、ポッティチェリのヴィーナスの誕生が印象的ですが、先生は反戦の象徴としてのヴィーナス（裸婦）であると言われたことを思い出します。線描は、西洋に渡った藤田嗣治の線描表現にヒントを得て、心は、日本の浮世絵や安藤広重の雨の直線表現（庄野の白雨）の話を

覚えています。これは、先生のシリーズ作品、東海道五十三次にも発展しています。

先生の教えを顧みますと、7グループの絵画教室のこと、磊雅会、金曜会、ふくろう会、火曜会、かほり会、土絵会、パンドルクラブほとんどが初心者グループに、やる気を起こさせて頂いた年月。グループ合同展示会場での優しい作品解説は、本人以上に特徴を捉え、一点一点丁寧に心温まる解説を頂いた記憶が、昨日のように巡ってきます。

その前に遡って、今も生きる「<sup>らくが</sup>磊雅会」の話です。名前の「磊」は石の上にも三年、三年も続けばと言って始めたものが、あれよあれよで、40年以上いまだに引継がれています。創設時のメンバーは、信金理事長、会社の社長、商店主、耳鼻咽喉科、歯科、外科、整形外科医ほか、安城市中のそうそうたるメンバーでした。医者が多いことから、先生は「僕はどんな病気でも心配ないよ！」といつも言って見えました。然り、一番の長生きは、先生でしたね。また、「僕は先生じゃないよ、「磊雅会」ほかメンバーからいつも絵を教えてもらっているよ」が口癖でした。

そんな博先生を傍で支えて頂いた奥様の秀子先生、ご家族の皆様

にご苦労様・ありがとうの言葉を贈りたいと思います。

絵を通して、数々の教えを頂きました。私たちは、その教えを胸にこれからも一生懸命、絵を描きながら、励んでまいります。



7グループ展より

## 会と催し

一文協後援のもの一

◎第37回祥霞会書展

・11月1日(金)～3日(日)

へきしんギャラクシープラザ

◎第18回夕照会書展

・11月20日(水)～24日(日)

市民ギャラリー

◎神谷光園書展

・11月20日(水)～24日(日)

市民ギャラリー

◎第43回三鈴会かな書展

・11月29日(金)～12月1日(日)

市民ギャラリー

◎雅友会「友展」

・12月3日(火)～8日(日)

市民ギャラリー

◎ビッグラバースオーケストラ

第17回定期演奏会

・12月14日(土)

市民会館 サルビアホール

## 事務局より

事務局の年末年始休業期間は、12月28日(土)～1月6日(月)です。

## リレー随筆

インバウンドという言葉が、出して久しいが、何と最近では月に300万人の海外観光客が来日するといふ。お金も年に5・3兆円を使うそう。この金額は日本の国家予算の4・7%にもなる。我々、高齢者の感覚では日本は貿易立国で製造業を中心に高度の経済成長を果たし、人々は稼いだお金を持って海外旅行に出掛け、買い物に、飲食に大盤振る舞いしたものだ。

世の中、何が起るかわからないとしが言いがたい。まるで立場が逆転したようで日本にきた外国人は、とにかく安い・安いと消費税も非課税で爆買いしていく。高価な商品や高級料理は我々には手が出ないが、店舗もターゲットをインバウンドに絞っている。欧米あたりでは、自国の価格の1/2程度で日本の買い物が楽しめるので、旅費もあまり気にならないようだ。

失われた30年と言われるように日本では長い間デフレに見舞われ100均ショップが大繁盛し所得が増えなくても物価も上がらない状況が続く何とか生活出来てきた。その間、先進国の多くでは賃金も物価も上昇し、インフレ状態となってきたこととの違いだろうか。さてこの先

Y o u